
Evil • FourEyes

G r i v e

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

E v i l ・ F o u r E y e s

【Nコード】

N 6 4 5 7 B

【作者名】

G r i v e

【あらすじ】

人間の世界から悪魔の世界に引きずり込まれた人間の話し。彼等は悪魔の犇めく中どう生きて行くのか？短編用に短くしてあるのでストーリーの核心に触れていません。SF・ACT小説として楽しんで下さい。

（前書き）

始めに、短編用に短くしてあるので、ストーリーの核心に触れていません。SF・ACT小説として楽しんで下さい。

「俺は柳沢流。一度死んだ男だ、18の時、夜中バイトから帰ってきたら家には翼のはえた宇宙人みたいな奴が立ってた。見た感じ悪魔だ。昔から霊感的なものが強かったから色んなモンを見てきた。だがあんなのは初めてだった。奴は俺を見たときとたん尖った爪で俺の腹を貫いた、俺の意識は次第に薄くなっていった。死ぬ、と思ってた。だが意識が戻った、腹の傷もない、いつも寝ているベットの上だった。夢だと思った、思ってた。だが違った、自宅アパートの階段を下り外を見た、この世とは思えなかった、建物以外が全て深い紫色に染まっていた、俺は以外に冷静だった、地獄だと確信した、もし俺が死んでいるのならここは絶対地獄だろう、もし生きているのなら此処は悪魔の住家だろう。何もしないわけにはいけない、俺は真実を求めて立ち上がったんだ。」

柳沢流は腰をかけていた、自宅アパートの階段から立ち上がり歩きだした。

とりあえず歩いてみた、何処までいこうか考えながら歩いてたらよく行く公園に着いた。広さは野球が出来るぐらい、周りは木々が生い茂っている。

「やっぱり地獄かなあ」

流は呟いた。

いつもなら朝から晩まで必ず誰かがいた、今は時間はわからないが誰もいない。

流は公園を過ぎて、また歩きだした。

「そうだ、学校なら誰がいるかもしれない。」

流は母校の小学校に向かった。

学校に着き、正門から学校に入ろうとしたとき、

流の右、門の陰から何かが流に向かって飛び出して来た。

「くたばれ悪魔め！」

そう叫びながら流に向かって鉄パイプで殴りかかってきた。

「うおっ！」

流は驚いたが上手く鉄パイプを避け殴りかかって来た15歳ぐらいの少年の腕を押さえ言った。

「俺は人間だ、お前も人間みたいだな俺はまだ状況が把握出来てない、何か知っているなら教えてくれ、な？」

「人間かぁ、いきなり襲って本当にすいません。」

「気にしてない、何か知ってるなら教えてくれ。」

「俺さっき悪魔が話してるの聞いたんだ、人間と悪魔を同じ世界にすまして、人間を奴隷にするんだって、そのためかは知らないけど、霊感の強い人間19人をいけにえにするとかなんとか」

「それはヤバイな、俺は霊感が強い。お前は？」

「自分ではわかんない、多分弱いですよ。ついですが名前は藤本大地です。」

「大地か、ここは一緒に行動しよう。二人いたほうが心強い。」

「そうですね、あなたの名前はなんですか？」

「柳沢流だ、よろしく」

流、大地は一旦会話を止めると武器、食料を探すために流の母校、大道小学校に入ってしまった。

「ここは確か正面玄関、左にいけば図工室があるな、ノコギリだとか何かがあろう、そこで武器を調達しよう、悪魔がいないとも

限らない慎重に進もう。」

流は言った。

「わかりました」

大地は首を縦に振った。

そして流達は図工室についた。

流は周りを見て言った。

「ここには武器がないな、準備室にいくか。」

流達が準備室に向かおうとしたとき、廊下に悪魔が一匹いるのが流と大地の目に入った。

「机の陰に隠れるぞ」

流は大地に呟いて聞かせ、大地の腕を引いた。

まだ悪魔がうろついてる、
しばらくして

悪魔はどこかにいったようだ。

「急いで準備室に行くぞ、早く学校からおさらばしよう」

流と大地は隣の準備室へ向かった。

図工・準備室

「これもて」

流は二本の剣状のノコギリを大地に渡した。

「流さんはどうするんですか？」

大地は聞いた。

「一つ思い出したんだ、ここの校長は骨董好きで校長室に日本刀を置いてるんだ、まだ校長が変わってないことを祈って校長室に行ってみる。」

「運が悪かったら悪魔に見つかりますよ。」

流は少し黙って、考えてから口を開いた。

「そのとうりだ、だが武器は必要だ、そして食料も必要だ、ってことで手分けしよう。」

「いいですけど・・・何をすればいいですか？」

「今いる準備室の向かいに給食室がある、お前はそこに行ってこの鞆に食料を入れてこい」

そう言うとき流はポケットから薄地の折りたたみの鞆を出し、大地に渡した。

そして言った。

「落ち合うのは正面玄関だ。」

「わかった。」

そう言うとき流、大地は廊下に出て安全を確認し二手に別れた。

流は二階にある校長室に向かうため、突き当たりの階段を昇って二階に出た。

「たしか、この校舎はT字になっているはずだから、途中まで真っすぐ進んで右に曲がれば校長室だ」

流はそう呟くと校長室に向かって歩きだした。

校長室が見えた

「ふう、ここまでではなんとか来れたか、さてと日本刀を探すか」

そう言つて校長室への扉を開けたら

流の目の前に悪魔が現れた。

「やばっ」

「人間？11番目のイケニエか、お前をネメシス様のところに連れていけば俺は力を貰える」

そう言つと悪魔は流を押し倒し、尖った爪を持つ腕を振り上げた。

「糞！」

流はそう言つて、悪魔の顔を殴り、体制を立て直して悪魔の腹を蹴つて飛ばした。

悪魔は校長室の壁を突き破つて倒れた、

「なぜ人間にこんな力が？」

悪魔はそう呟いた後立ち上がり天井に当たらない程度に飛び上がり、流に飛び掛かり、掴み、廊下に投げた。

「ぐっ！」

流は痛みを堪え立ち上がった、

「ん？」

流の後ろに日本刀が鞘に入れられたまま落ちていた。
流は日本刀を広い上げて言った。

「覚悟しろよ。コウモリ野郎！」

「ついてるなお前、だが俺もついてるみたいだ。」

悪魔が言つと、流は後ろから何かに頭を掴まれて持ち上げられた。

「うああ」

流は悲鳴に近い声を上げた。

「糞！なめんなよ！」

流は言つて、日本刀を鞘から抜き、流の頭を掴んでる悪魔の腕を切り落とした。

「うぎゃあああああ！」

腕を切り落とされた悪魔は金切り声を上げのたうちまわっている。

「てめえ」

もう一匹の悪魔が流に飛び掛かってきた。

流は冷静に右に避け悪魔の体を真つ二つに切った。

真つ二つになった悪魔は青白い光りとともに消滅した、流はのたうちまわってる方の悪魔をほうって正面玄関に向かった。

「遅いな・・・」

流は正面玄関に着いていた。

あまりの遅さに給食室に大地を向かえに行こうとしたその時、

流の視線の先に悪魔に追い掛けられている大地が目に入った。

「大地！こつちだ！」

流は叫んで誘導する。

そして流は大地の方に向かって行く。

大地を過ぎて悪魔と向かい合った流は悪魔の腹に日本刀を突き刺した。

「ぎゃあああああ」

悪魔は悲鳴をあげ青白い光りとともに消え去り、日本刀から消えた。

「大丈夫か？大地？」

流は問う。

「なんとか、助かりました。」

「気にするな。」

流と大地は会話を終えると正面玄関から校庭に出た。

「人間の世界に戻ろう。必ず二人でだ。」

流は大地にさういうと。

二人は歩きだした。

（後書き）

初投稿です。初心者＋めんどくさがりなので上手く書けてないのは承知です。ただ読んで貰えればうれしいかぎりです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6457b/>

Evil・FourEyes

2010年10月9日22時05分発行